

自然をめぐるエッセー 54

由井 浩

上野公園の初散歩

今年の新年初散歩は上野公園を歩いた。初めに上野動物園の近くにある上野東照宮のぼたん苑に行った。ここでは、紅白の傘などで飾られたぼたんの花や寒さ除けの藁囲いで覆われたぼたんの花が新春にふさわしい華やかな雰囲気醸し出していた。



冬に咲くぼたんについて調べると、春と冬の二期咲きの性質を持つぼたんが冬に咲いた「寒ぼたん」と、普通は春から初夏に咲くぼたんを冬に咲かせるようにした「冬ぼたん」の2つのタイプがあり、寒ぼたんの花の開花は気候や環境に大きな影響を受けるために着花率は2割以下と低く、冬ぼたんは春と夏に寒冷地で開花を抑制して秋に温度管理して冬に開花させるという相当の手間、ひまをかける必要があり、いずれも結構貴重な花だということがわかった。

ここで観賞できる約200株のぼたんのほとんどは冬ぼたんで、寒ぼたんはちらほらとしかなく、中には花が咲いていないものもあって、花が咲いている寒ぼたんの希少性がよく理解できた。



冬ぼたん



寒ぼたん

花を育てる人達が苦労を重ねてきた姿を想像しながら華やかに咲くぼたんの花を眺めて回った。

出口の手前の垣根沿いでは、藁囲いで飾られた 3 種類の冬ぼたんの花が五重塔を背に冬の陽を浴びて輝いていた。



ぼたん苑を出て上野公園内の大通りに戻り、南に少し歩いて寛永寺清水観音堂に行った。大通りから見上げて写真を撮った後で、坂道を上って本堂で今年一年の平穏を祈って参拝した。舞台から不忍池を望みながら、本家京都のお正月に思いを馳せた。

寛永寺清水観音堂全景→



正岡子規記念球場と子規の句碑

帰路東京文化会館の西側にある正岡子規記念球場の脇を通った。バックネット裏近くの場外に「春風や まりを投げたき 草の原」という子規の句碑が立っていて、その下に子規が明治の初めに日本に紹介された野球を愛好し、幼名の升 (のぼる) にちなんで野球 (の・ぼーる) という号を持っていたことや、子規が使った打者、走者、直球などの訳語は今も用いられていることなどが記されていた。

7年前に鶯谷の子規庵を見学した時に、子規は明治 35 (1902) 年に 34 歳 11 ヶ月で亡くなるまでの 8 年間、子規庵で病に冒されながらも俳句と短歌の近代化のために闘った壮絶な日々を過したことを知った。今回子規記念球場の句碑で、20 歳前後の頃には子規にも野球を心から楽しむ穏やかな日々があったことがわかった。ほっとした気分になって上野駅まで歩き、初散歩を終えた。